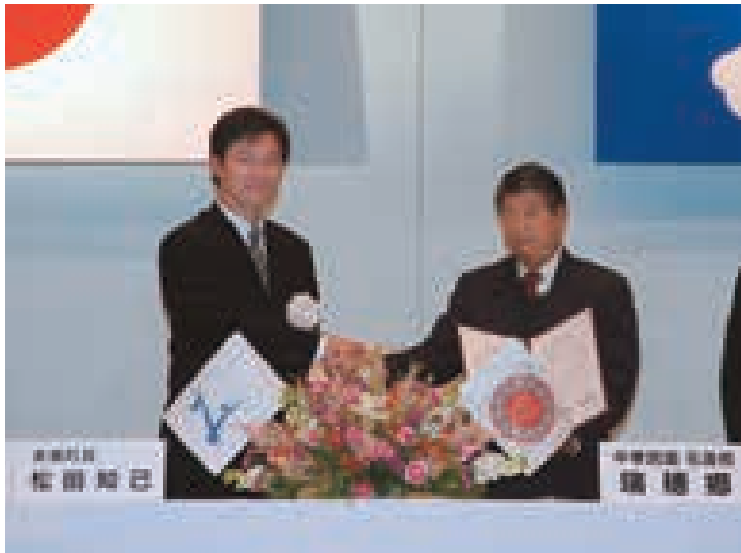


1. 台湾・瑞穂郷と友好交流の協定を結ぶ

式典の最後には、台湾の花蓮県瑞穂郷との友好交流に関する協定書への調印が行われました。

今回協定を結んだ花蓮県瑞穂郷との友好交流は、旧六郷町が町制施行百十周年を迎えた平成十三年から行われていました。平成十三年に県内で行われたワールドゲームズでゴルフボール競技の開催地となった旧六郷



▲友好交流の協定書を交換し握手する松田町長と瑞穂郷長の饒さん

花蓮県瑞穂郷(かれんけんみずほごう)

台湾の太平洋側のほぼ中央に位置する人口約1万5千人の町。北回帰線が通過しており、台湾の水の郷として、夏は涼を求める観光客で賑わい、お茶の産地としても有名。水を郷の資源、郷の宝として守り続けている。

町が、町民スポーツとして同競技を取り入れようとして台湾ゴルフボール協会から指導を受けたことが縁となり、当時会長であった楊守全さんの出身地である瑞穂郷との友好交流が始められ、現在に至っています。

この日は、瑞穂郷長の饒欣奇さんをはじめ十五人が本町を訪れ、合併記念式典に出席。饒郷長と松田町長が互いに署名した協定書を交換してがっちり握手をすると、会場からは盛大な拍手が送られました。

【期待の言葉】



六郷中学校二年
寺山 啓太さん

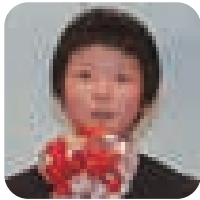
にする町」、「美しい自然が残る町」、「環境に優しい町」など豊かな自然環境をなくさないでほしいという思いを抱いている人が一番多かったです。

合併のとき私は、不安と期待が入り交じった気持ちでいました。住んでいた旧六郷町の名前がなくなってしまうのは名残惜しいという気持ちがありました。けれども、美郷町が誕生して四カ月、今ではこれからどんな町になっていくのかという期待の方が強くなりました。

そこで美郷町に期待することを私たちの学年のみんなに聞いてみたところ、商業施設がほしい、都会っぽくなってほしいという意見もあったのですが、最も多かったのが美郷の名前のおり美しい町であってほしいということでした。「自然を大切に

また、町のよさをもっと他にアピールすべきという意見もありました。でも私はまだ、他の町の人に美郷はこのような町だとはうまく説明できません。将来は私たちの町はこんな素晴らしい町だと町内の誰もが誰にでも自慢できるようにしていきたいです。

最後に、他の中学校との交流をしたいということもありました。この美郷町の将来を担うのは私たちだと思います。しかし交流が多いわけでもありませんので、三つの中学校の生徒がこれを機に交流の輪を広げ、共通の認識を持っていききたいと思えます。



千畑中学校二年
齊藤 志都さん

私はいち早く誕生した美郷町にどうしても実現させてほしいお願いがあります。それは、若い人が

たくさんいる元気な町にしてほしいということです。

一年生のとき職場体験で旧千畑町役場に行ったとき、国からもらえる交付税が年々減ってきていて、厳しい財政状況だということを知りました。町にお金があれば何もできないわけではない、何か自分たちでもできることはないかと考えたとき、たくさんの方が町に税金を納めれば少しは

1. 美郷町にゆかりのある人から応援メッセージが届く

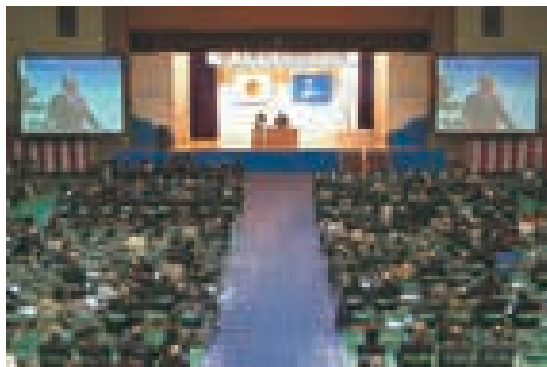
また、今回の式典には、美郷町にゆかりのある人から新町誕生を祝うビデオメッセージが寄せられ、式典開始前と終了後に会場内に設置された大型スクリーンで放映されました。

ビデオメッセージに登場したのは、マジシャンのブラボー中谷さん(美郷町土崎)、プロ競輪選手の加藤忍さん(美郷町六郷)、大相撲東関部屋(美郷町六郷)の華王錦さん(美郷町金沢出身、本名・村田武志さん)の三人。

ブラボー中谷さんはこの日のために考えた「合併マジック」を披露して美郷町誕生を祝福。また、加藤さんは「美郷町に新しい競輪場が昨年完成し、新たな気持ちで練習に打ち込める環境ができ、本当にうれしく思っています。これからも美郷町を代表する選手として頑張っていきたいと思えます」、華王錦さんは「いつまでも美しいふるさとであることを望んでいます。これからも関取目指して一生懸命頑張りますので、応援をよろしくお願いします」といったメッセージをお寄せいただきました。

1. 合併記念講演会で読売新聞編集委員の橋本五郎さんが講演

式典終了後には合併記念講演会が開かれ、秋田県琴丘町出身で読売新聞編集委員の橋本五郎さんが「これいいのか日本の政治」と題して講演。約九十分間にわたる熱弁に、出席者は熱心に聞き入っていました。



役立つのではないかと思いました。そのためには、若い人たちが町に定住することが大切であり、定住するためには定職に就かなければならぬのです。若い人がたくさん住むようになれば、そこからサークル等が発足し、町の発展につながる発想が生まれるかもしれません。将来日本の人口は現在の四分の一になるだろうと予測している人もいます。そうなれば社会保障の崩壊はもちろん、



仙南中学校二年
鈴木 湧平さん

今まで住んでいた村が合併すると決まったとき、私ははつきり言っていやでした。仙南村にはたった十四年間しか住んでいませんでしたが、村でのたくさんの思い出がなくなってしまうようで、ずっと合併はしたくないと思っていました。

しかし、仙南村の閉村式でのこと、私より何十年も長く仙南村で生活してきた人たちの話を聞いて、今までの思い出は思い出として心の片隅にしまい、それをもとにすばらしい町を作ろうという考えのために、美郷町には次のことを

すべてにおいて狂いが生じてきます。

このような展望の中で、これから自給自足的な町の運営を強いられることを考えたとき、若い人の動向がキーポイントになるような気がします。そして美郷町の運命もそこに委ねられてくると思うのです。だからこそ、私たちが学校を卒業したら定着できる環境づくりをお願いしたいと思います。

望みます。

一つ目は、千畑、六郷、仙南の特徴を生かし、美郷町と言えこれだという自慢を持てるような町になってほしいと思います。二つ目は、千畑、六郷、仙南の歴史や伝統を町中に広め、盛んな交流がある元気な町にしたいです。最後に、町民が年月を重ね昔を振り返ったときに、この町で毎日を楽しんで過ごすことができ、美郷町民でよかったと思えるような町にしたいです。

この三つのことをかなえるには、次の世代を担う私たち中学生や小学生の力が必要になってきます。私たちが美郷町の一員としてそれぞれの地域の歴史、文化、産業などについてそのよさを学び、理解を深めることが大切です。そして交流を盛んにして、新しい時代の架け橋となるように頑張りたいです。